



子どもたちがつくる世界「夢パーク」

「子ども夢パーク」は、「子ども一人ひとりが大事にされなければならない」そう考えた大人と子どもがたくさん話し合いをして「川崎市子どもの権利に関する条例」をつくり、その条例をもとにつくられた施設です。

園内には、カラフルな手づくり遊具があり、冒険心をそそる世界がつくられていました。子どもたちの「やってみよう」気持ちを大切に場所。普通は危険だからと排除してしまう火や工具も、曜日によって使えます。

工具コーナーにはノコギリやかなづち、釘や木片がゴロゴロ。なぜか懐かしく思えたのは、子どもの頃、空き地に転がっていた土管や不思議なモノたち。子ども心に、想像力を掻き立てられ、冒険心をそそられて遊んでいたあの感覚。

子どもは何でも遊びに変えてしまう。本当の想像力は、ちょっと危険で不完全なモノの中に潜んでいるのでしょう。水たまりで遊ぶと汚れるから、お

着替えは必須。服が汚れるほど心はピュアになっていく。今は、芝生を敷き詰めた園もありますが、水たまりからいろいろ発見することもあるんだよなあ。

私たちが子どもの頃は、雨の日の翌日は水たまりばかりで、空の雲が映ってキレイだな…。面白い形の水たまりだななんて、雨上がりの水たまり発見でドキドキして楽しかったりしたなあ。

息子たち、そこに転がっていたタイヤを使って早速タイヤ屋さんごっこを始めました。想像の世界をどんどん広げていく様子は、自分の子どもの頃とも重なって不思議な感覚。リヤカーにだって乗っちゃう。さあ、冒険の旅に出発だ！この日はかねこひろゆきさんの



お弁当がマックに負けた？

塾の特別講習での出来事。9時から17時まで高校受験のための特別授業(タイトルがすごい)が行われた。

母として気になるのは昼食。「外で食べる人もお弁当の人もいて、いろいろだっよ」と息子。

私は考えた。「一日部屋にこもって勉強では、外食のほうがいいのか」。でも「店が混んでいて休憩時間が減ったら嫌だろうな」。本音は「最近はお弁当をつくっていないからちょっとり面

倒臭い。それに「この日は次男と出かける予定もあって、朝はかなりバタバタしそう」。

でも苦しい勉強をがんばる息子を、母として応援しなければ！とがんばってつくったものの、ほとんどの人が外食だったというわけ。

皆口々に「ケータイのクーポン使えば安いよ」などと話しながら、教室を出ていったそう。残ったのは、息子を含め3人だったらしい。弁当3人に対し、外食27人。

親が忙しくてつくるのが大変？それとも子どもが好きだからマックなのか。ともあれ、弁当の時代



は終わりを告げるのか。後で聞くと「マックがよかった」と、チラッと息子。弁当がマックに負けた！「勉強をがんばったんだから、マックのほうがよかったか。でもお弁当だって…」と、小さいことをくどくど思いめぐらす私であった。(尾形智子/川口市)



ママが寝てる！

お昼過ぎ、何となく頭痛くて気分もスッキリしなかったため、夫に娘を庭で遊ばせてもらい、私は少し横になりました。「10分くらい横になって、すぐに起きよう…」と思っていたのに、そのまま1時間半も熟睡…zzz

「アァ!! ママが、ネテルウー！」という、娘の元気な声で目が覚めました。

ママが寝てるの、そんなに珍しいか

い？確かに娘が、寝ている私を見ることって、ほとんどない。夜は娘を寝かしつけてから寝るし、朝起きるのは、娘が起きる前。娘のお昼寝中は、私の家事タイムだし。

「ママが寝ている」のは、娘にとってはとても新鮮な光景だったのでしょ。私自身も、母の寝姿というのはあまり記憶にないような。記憶にあるのは、いつも忙しそうに動き回っている母の姿ばかり。

娘よ、いつの時代も、お母さんは寝る間も惜しんで育児に家事に



とがんばっているものなのよ。でもサイボーグじゃないから、たまに休まなければいけないわけで、ママが寝ている姿を見ても、あまりビックリしないように！(厚海有美/横浜市)



水辺の生き物、うちにやってくる

水辺の生き物を採りに子どもたちと江津湖へ出かけました。湧水地帯や小さな水路が点在する江津湖は生き物の宝庫です。昆虫採集とか川遊びとか、ほとんど経験のない長男トットは、こういうのにとっても慣れていたらしく、網と小さな水槽を持ってはりきって出発！



「だ、だいじょうぶ？こわくない？」と離れた私に確認しながら、やみくもに網を振り回しています。すると近くで植物を採集をしていたおじいさんが、見かねて「その辺にはなんもおらんよ。橋のほうへ行ってごらん」とアドバイスをくれた。

トットさん、行ってみるもやはり怖くなり「何もいないよーどうやってとったらいいんだよー」と立往生。

「そんなことで怖がってどうするね！」と、おじいさんは親切にもつきっきりで、いろいろなことを教えてくれた。水底の石の下に生き物がいること。水が濁らないようにそっと持ち上げること。上流に立つと生き物が逃げってしまうこと…。

そして、さまざまな生き物が次々と網の中に。あっという間に水槽は、エビ・ザリガニ・小魚やタニシでいっぱいになった。トットは魚採りの名人を尊敬のまなざしで見つめている。

「えさはパンくずでもよか。水は毎日換えんといかんよ。でもいっぺんじゃなくて半分ずつたい」生き物の育て方まで教えてくれて「いつまででん、トット君と遊んでおられん」と言って、おじいさんは去って行った。

おじいさんが行ってしまったあと「タニシもパンをたべるのかなあー？」と水槽をのぞき込みながら話していると、「じゃあ聞いてくるわ」とトットが急に立ち上がった。

「聞いてくるって…誰に?」「そのへんの人や！」そう言って、今度は犬の散歩途中のおじいさんをつかまえてきた。

「こんにちはー。タニシって何たべるの?」突然の変な質問に嫌な顔ひとつせず、タニシの飼育の仕方について懇切丁寧に教えてくれるおじいさん。なんでタニシについてそんなに詳しいのか…。

ともかく。私はただ娘と座っていただけなのに、水槽いっぱいの生き物と、たくさんの知識と共に帰途についている、ということが驚きでした。

うちは夫がアウトドア派じゃない上、休みもあまりなく、こういう遊びはなかなかできないと思い込んでいたのに、現地で調達するという手があったとは…(お父さん&おじいちゃんまで)！皆さんに感謝です。



さて、江津湖からわが家へやってきたのは、ドンコという魚(魚採り名人のおじいちゃんには「どんかつちよ」と呼ばれていた。熊本の方言らしい)やザリガニ、カワニナ(タニシみたいな貝)などなど。

メモ魔のトットは、早速お世話の仕方やらエサの種類なんかを紙に書き込んでいます。見ると、何やら楽しい観察日記ができていないではありませんか。

ちょっと拝見…。「カワニナ、つまりタニシにそっくりななかみみたいなかんじ。カワニナのえさ、タニシとけっこうおなじというがぜんぶおなじかわからない」…自由すぎる文章がいい感じ。夏休みの自由研究のために観察日記をつけなさい！

なんて言ったら、途端につまらない文になっちゃうんだろうな。親子で楽しみながら、大事にお世話したいと思います。(村上由起子/熊本市)




お母さん業界新聞 地域版 プロジェクト

つくればわかる！ 地域でアクションしよう

お母さん記者って特別なお母さんではなく、普通のお母さんたちです。が、少しだけ違うのは、自分のことだけでなく、子どもたちが育つ地域のことを少しだけ意識していること。地域で一步踏み出せば、いろいろな出会いと感動があります。もしかしたら、探していた夢が見つかるかもしれません。

もちろん、新聞づくりは楽しいことではありません。時には悩んだり、落ち込んだりもするでしょう。だから楽しくて、だから大切なことが見えてきます。悩むときは、みんな一緒に悩みましょう！

さて、「つくればわかる」。2年目のお母さん大学の実践講義です。1期生は、全国15エリアでスタートします。汗をかきたい方、夢を見つけた方は、お母さん大学事務局まで。



子育て応援団 (企業・団体) 募集!

『月刊お母さん業界新聞』は、一般のフリーペーパー(広告紙)ではなく、子育てをしているお母さんたちが、心から笑顔になるための媒体です。この新聞をひとりでも多くの母親たちに読んでいただけるように、子育て応援団(企業・行政・団体)を募集しています。企業のCSR、地域の活性化、子育て支援、社員教育、販売促進、企業のノベルティ、プロモーション版など、『月刊お母さん業界新聞』のコンテンツを活用したプロモーションをご提案します。

株式会社トランタンネットワーク新聞社
 [お母さん大学] <http://www.okaasan.net/>
 [トランタン新聞社] <http://www.30ans.com/>

